【日本の大学】第 14 回――慶應義塾大学：諭吉精神生きる初の私大

慶應義塾大学は、福澤諭吉が創立した日本最初の私立大学である。諭吉は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」で知られる「学問のすゝめ」を書いた明治時代を代表する思想家、教育家であり、現在の 1 万円札の図柄にもなっている。日本人なら知らない人はいない有名人であろう。

福澤諭吉は九州・中津藩（現大分県中津市）の下級武士の家に生まれ、大阪の蘭学塾である緒方洪庵の適塾に入門、若くして塾長となった。藩命で江戸に出た数え年 25 歳の時、築地鉄砲洲の小さな長屋の 1 軒に蘭学塾を開いた。1858（安政 5）年のことで、これがのちの慶應義塾大学の起源とされる。開塾の翌年、福澤は横浜見物の折、オランダ語が役に立たず、これからは英語が必要と気づき、独学で英語を治め、やがて教えるようになった。

1 万円札の表面には福沢諭吉の図柄

3 回の海外渡航

福澤は江戸末期の 1860（万延元）年から 67（慶応 3）年にかけて計 3 回、海外へ渡航している。米国に 2 回、欧州 1 回で、従者や随員など高い立場ではなかったが、欧米の進んだ文明、文化や教育などの実情に触れ、辞書や多くの原書を購入して帰国しており、その後の諭吉の思想や生き方を決定づける大きな影響を与えた旅行だったと言えよう。

以下、大学のホームページなどをたどりながら、慶應義塾の歴史や現況をみていこう。

1867（慶応 3）年の暮れには芝新銭座の有馬家控屋敷（現東京都港区浜松町 1 丁目）を手に入れ、翌 68（慶応 4=明治元）年に校舎が完成、その時の年号を取って塾名を「慶應義塾」と定めるとともに、個人塾から脱して近代的な私立学校として発足している。

福澤が「義塾」と名付けたのは、英語の「パブリック・スクール」を参考に、この言葉に新しい知識のための「学塾」という意味を込めたとされている。

1871（明治 4）年には、当時島原藩の中屋敷のあった三田の地を譲り受けて、現在も本拠のある三田に移転した。教育課程は米国風を採用し、修業年限 7 年の正則科と満 17 歳以上の入学を条件に修業年限を定めない変則科を設け、大学が確立するまで、ほぼこうした学制を踏襲した。

三田キャンパスにある福沢諭吉の銅像

難局乗り越え

1877（明治 10）年、西郷隆盛による西南戦争が勃発、その辺りから、慶應義塾にとって最初の危機が訪れる。生徒数が激減し、経営危機に直面、福澤は一時、廃止もやむなしと決意したほどだった。その際は、協力者の力で、「慶應義塾維持法案」を作成して難局を乗り越え、その後、「慶應義塾仮憲法」（1881 年）、「慶應義塾規約」（1889 年）を定めて態勢を立て直し、今日の礎を築くことができた。

慶應義塾の最高責任者は「塾長」であるが、仮憲法は、塾長の選任方法、その任務を定めた。規約はそれをさらに詳しくしたもので、その規約は何度も改定されて現在に至っている。規約では、塾長は、慶應義塾の理事長と慶應義塾大学の学長を兼ねるなどを定めた。

大学部を修業年限 3 年としてスタートしたのは 1890（明治 23）年のことだが、学制改革を実施して本格的に大学教育に乗り出したのは 1898（明治 31）年である。大学部を中心に、大学科（5 年）、普通学科（5 年）、幼稚舎（6 年）の 16 年の一貫教育体制を整えた。同時に大学科に政治学部を増設した。いずれも、全国の私立学校の中では初めての試みであった。また 1906（明治 39）年には、大学院も設置されている。さらに 1917（大正 6）年には医学科が開設された。

三田キャンパスの第一校舎

北里が奔走

医学科（医学部）の創設には、「日本の細菌学の父」として知られる北里柴三郎と福沢諭吉の関係がある。海外で大きな業績を上げた北里が帰国後、不遇をかこっていたのをみかね

て資金援助など全面的に協力した。福澤の死後、北里は福澤の長年の恩義に報いるため、医学科の創設に奔走し、初代の医学部長、付属病院長となった。

名実ともに大学として認められたのは 1920（大正 9）年であった。大学令によって早稲田大学とともに認められたもので、文学部、経済学部、法学部、医学部の 4 学部からなる総合大学となった。予科・大学院も付設された。

第 2 次大戦前の出来事としては、1932（昭和 7）年に、創立 75 年の記念式典が開かれたことだろう。天皇陛下の名代として秩父宮殿下が臨席し、義塾出身の犬養毅首相ほか約 3 千名が参列した。記念事業として神奈川県日吉村（現横浜市港北区日吉）に 13 万坪（約 43 万平米）の敷地を手に入れて日吉キャンパスの建設を進めることとなった。

戦災によって三田キャンパスの施設の半分以上が焼失、戦後すぐに日吉キャンパスの施設を米軍に接収されるなど、大きな痛手をこうむった。

1949（昭和 24）年には、新制大学として発足し、文学部、経済学部、法学部、工学部の 4 学部でスタート。その年には日吉の接収も解かれ、再建は着実に進んだ。その後、大学院（修士課程）の開設（1951 年）、医学部の設置（52 年）、商学部増設（57 年）と続いた。

その後は、1981（昭和 56）年に工学部を発展させて理工学部となり、90（平成 2）年に、湘南藤沢キャンパスに総合政策学部と環境情報学部を開設、さらに 2001（平成 13）年に看護医療学部の開設を行っている。また、2008（平成 20）年には、共立薬科大学と合併したことで、薬学部・大学院薬学研究科が設置されている。

三田キャンパスの南館

「独立自尊」掲げる

慶応義塾の基本精神は第一に、「独立自尊」であろう。自他の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うことを意味している。「実学」も福澤がしばしば言及していた言葉で、慶應義塾の伝統的な精神となっている。「実学」とは、福澤曰く、すぐに役に立つ学問ということではなく「科学（サイエンス）」を指す。実証的に真理を解明し問題を解決していく科学的な姿勢のことであるという。

現在、10 の学部（文学部、経済学部、法学部、商学部、医学部、理工学部、総合施策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部）と大学院 14 研究科（文学、経済学、法学、社会学、商学、医学、理工学、政策・メディア、健康マネジメント、薬学、経営管理、システムデザイン・マネジメント、メディアデザイン、法務＜法科大学院＞）を持ち、学生数は 33400 人、大学専任教員は 2300 人に上る。

これらの学部、学科が首都圏の六つのキャンパスに分かれて勉学に、文化活動やスポーツなどに励んでいる。大学の代名詞とも言われる三田キャンパスは創立以来の歴史と伝統が刻まれている。国の重要文化財である三田演説館や赤レンガの図書館旧館は、明治の時代の息吹を伝える。校内には「福沢諭吉終焉の地」の記念碑を始め、数多くの文学碑や美術作品が散在している。文学部、経済・法・商学部の上級生や、文学・経済学・法学・社会学・商学・法務研究科の大学院生が学ぶ。

三田キャンパスの図書館旧館が重要文化財に認定

三田の次に古い日吉キャンパスは広大なキャンパスに、主に学部の 1，2 年生が学んでいる。ほかに、矢上キャンパス（理工学部）、信濃町キャンパス（医学部、看護医療学部）、芝共立キャンパス（薬学部）、湘南藤沢キャンパス（総合施策学部、環境情報学部、看護医療学部）がそれぞれ独自の雰囲気を持っている。

このほかのキャンパスとしては、神奈川県川崎市との協働による先端研究教育連携スクエアとして 2000 年の４月に開設された「新川崎キャンパス」、国際戦略拠点の立地を生かしてイノベーションの創設をめざして 2016 年４月に開設された「殿町キャンパス」（川崎市川崎区殿町）、山形県や庄内地域の市町村との連携をもとに先端生命科学研究所を中心とした、自然豊かな地域連携キャンパスとして 2001 年４月開設の「鶴岡タウンキャンパス」、埼玉県さいたま市緑区には、四季折々の緑に恵まれた薬用植物園やスポーツ施設を持つ「浦和共立キャンパス」、関西地方の拠点として大阪市北区に 2013 年 5 月にオープンした「慶

應大阪シティキャンパス」、社会人の教育機関としての役割を持つ、2001 年 4 月に開設された「慶應丸の内シティキャンパスキャンパス」などがある。

三田キャンパスにある図書館旧館

一貫教育貫く

慶應義塾の教育方針の一つとして、「一貫教育」が掲げられており、幼稚舎から、中等部、高等部が設けられている。幼稚舎は 1874（明治 7）年に、幼い塾生の教育をめざしてつくられた「和田塾」に発し、1898（明治 31）年には、小学校と位置付けられた。6 年間担任が代わらない教科別専科制を実施している。2013（平成 25）年には横浜に初等部が開設されている。横浜初等部の生徒は卒業後、南藤沢中等部・高等部へと進学する。

男子中学校として伝統のあるのが「普通部」。1898（明治 31）年から、一貫教育の中等教育課程を担ってきている。戦後の 1947（昭和 22）年に男女共学としてスタートしたのが、「中等部」。さらに 1992（平成 4）年に開校したのが湘南藤沢中等部・高等部で中高 6 年間の一貫教育を実施している。

高等学校は、慶應義塾第一・第二高等学校を統合して 1948（昭和 23）年に発足した「慶応義塾高等学校」のほか、埼玉県志木市にある「慶応義塾志木高等学校」、慶應唯一の女子子である「慶応義塾女子高等学校」（1950 年開校）、さらに、1990 年にはニューヨーク州高等学校卒業資格も取得できる男女共学の「ニューヨーク学院（高等部）」が名を連ねている。

慶応義塾は大学だけでなく小・中・高校などを設置しており、それらすべての最高責任者が「塾長」である。塾長は学校法人の慶應義塾の理事長であり、慶應義塾大学の学長も兼務する。現在の塾長は、基礎法学、日本法制史が専門の法学者である長谷山彰氏である。長谷山氏は大学の法学部と文学部を卒業し、文学部教授、文学部長などを歴任し、2017 年 5 月に塾長に就任した。慶應義塾の塾長は、1881 年（明治 14）年以後に規程化されたため、それ以降の塾長としては 19 代目となる。

三田キャンパスの東館

日文：滝川　進

写真：JST 客観日本編集部